

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

第121号

2023年1月12日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL : <https://choshigeopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

新年おめでとうございます。

銚子ジオパークは認定後10年が過ぎました。この間、銚子ジオパークも市民の会も大きく変わってきました。最初は銚子市民の方々も「ジオパーク」とは何の事なのかから

ない様子でしたが、最近では、「ジオパーク」というだけで、話が通じるようになりました。これも推進室はもとより、市民の会の皆さまの日頃の活動の賜と思っています。

また、新しく認定ジオガイドになられた4名の方々も、ベテランガイドに混じって活躍しています。

学校の学習支援等一度に沢山のガイドが必要とすることがあり、ガイドが足りない時もあります。新規のガイド希望者が望まれます。

銚子ジオパークのガイドの人達は「何を、どう伝えたらよ

年頭のご挨拶 銚子ジオパーク市民の会 会長 工藤忠男

報告 第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会

10月21〜23日の3日間

白山市に於いて標記大会が開催されました。

21日19時から「ミステリーハンター竹内海南江氏のスペシャルトークショー」「地球と遊ぶ」が開催され、軽妙なトークが展開されました。

「地球と旅するジオツアー」が東西日本の境界線」

「高低差4,000mロマン 富山の中の地球へ行く」

日本屈指の急流常願寺川と神通川を巡り、地球活動の痕跡やそこに育まれた文化・歴史を見るツアーでした。初日は常願寺川流域で、厚さ28mの溶岩台地を10万年の期間で水の力によって刻まれた落差日本一の称名滝を見学。砂防博物館にて、安政5年地震で起きた立山カルデラ崩壊の惨状とその後、常願寺川を下りながら、対策の実際や崩壊時、明を受けた後、常願寺川を下の巨大転石などを見学し、人々の自然との戦いを実感しました。

ますが、よろしくお願ひいたします。

22日は開会セレモニーの後、真鍋真氏による「恐竜化石から過去、現在と未来の地球を考える」のテーマで基調講演が行われ、生物は大量絶滅を繰り返してきましたが、現代は人間の存在によって、過去の大絶滅より、絶滅率は高くなっており、約100万種の動植物が数十年で絶滅の危機を迎えていると警鐘を鳴らしていました。

その後、パネルディスカッションや分科会が開催され、夜は交流会が3会場分散で実施されました。

翌23日は口頭発表、ポスター発表の後、閉会セレモニーが行われ、分科会報告、大会宣言、次期開催地紹介挨拶が行われ、次期開催地関東ブロックを代表し越川銚子市長が挨拶をし、銚子ジオパーク推進協議会赤塚事務局長、市民の会小玉副会長から順次挨拶が行われ、閉会しました。

以下、プレジオツアー、ポストジオツアー参加者の報告です。

「地球と旅するジオツアー」が東西日本の境界線」

「高低差4,000mロマン 富山の中の地球へ行く」

日本屈指の急流常願寺川と神通川を巡り、地球活動の痕跡やそこに育まれた文化・歴史を見るツアーでした。初日は常願寺川流域で、厚さ28mの溶岩台地を10万年の期間で水の力によって刻まれた落差日本一の称名滝を見学。砂防博物館にて、安政5年地震で起きた立山カルデラ崩壊の惨状とその後、常願寺川を下りながら、対策の実際や崩壊時、明を受けた後、常願寺川を下の巨大転石などを見学し、人々の自然との戦いを実感しました。



恐竜博物館にて参加者の皆さん

した比重3.2の硬玉ヒスイが、石灰岩やチャートなどの付加体と一緒に押し上げられ、変形成後に飛騨山脈の高所に運ばれたという複雑な「地球の旅路」に驚かされました。(小玉健次郎)

プレジオツアー

「地球と旅するジオツアー」が東西日本の境界線」

「高低差4,000mロマン 富山の中の地球へ行く」

日本屈指の急流常願寺川と神通川を巡り、地球活動の痕跡やそこに育まれた文化・歴史を見るツアーでした。初日は常願寺川流域で、厚さ28mの溶岩台地を10万年の期間で水の力によって刻まれた落差日本一の称名滝を見学。砂防博物館にて、安政5年地震で起きた立山カルデラ崩壊の惨状とその後、常願寺川を下りながら、対策の実際や崩壊時、明を受けた後、常願寺川を下の巨大転石などを見学し、人々の自然との戦いを実感しました。

翌日は神通川流域を巡るツアーで、プラタモリにも登場した富山大学の安江健一先生

裏面に続く